

ぶつう はいた
肩こり痛に

TRADE MARK



ノーラク

解熱鎮痛薬

第②類医薬品



効能・効果

- 1) 頭痛・歯痛・神経痛・肩こり痛・月経痛(生理痛)・関節痛・咽喉痛・耳痛・外傷痛の鎮痛
- 2) 悪寒・発熱時の解熱

用法・用量

大人(15才以上)……………1回1包
11才以上15才未満……………1回 $\frac{2}{3}$ 包
7才以上11才未満……………1回 $\frac{1}{2}$ 包
3才以上7才未満……………1回 $\frac{1}{3}$ 包
1日2回を限度とし、なるべく空腹時をさけて服用する。服用間隔は6時間以上おくこと。

成分・分量(2包中)

アセトアミノフェン…600mg プロモバルビル尿素…200mg
エテンザミド…500mg 無水カフェイン…200mg
添加物としてバレイショデンプン、リン酸水素Ca、
無水ケイ酸を含有する。

注意

1. 次の人は服用しないこと
(1) 本剤又は本剤の成分によりアレルギー症状を起こしたことがある人。(2) 本剤又は他の解熱鎮痛薬、かぜ薬を服用してぜんそくを起こしたことがある人。
2. 服用後は乗物等の運転をしないこと
3. 服用が適さない場合があるので、服用前に医師、歯科医師、薬剤師又は登録販売者に相談すること
4. 服用に際しては、説明文書をよく読むこと
5. 直射日光の当たらない湿気の少ない涼しい所に保管すること

副作用救済制度 ☎0120-149-931



1包1g 3包入
¥250+税

製造販売元
増田製薬株式会社
奈良県橿原市川西町429
お客様相談窓口 0744-27-4381

解熱鎮痛薬 ノーラク

⚠ 使用上の注意

⊗ **してはいけないこと** (守らないと現在の症状が悪化したり、副作用・事故が起こりやすくなる)

1. 次の人は服用しないこと

(1) 本剤又は本剤の成分によりアレルギー症状を起こしたことがある人。(2) 本剤又は他の解熱鎮痛薬、かぜ薬を服用してぜんそくを起こしたことがある人。

2. 本剤を服用している間は、次のいずれの医薬品も服用しないこと 他の解熱鎮痛薬、かぜ薬、鎮静薬、乗物酔い薬

3. 服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないこと (眠気等があらわれることがある。)

4. 服用前後は飲酒しないこと

5. 長期連用しないこと



相談すること

1. 次の人は服用前に医師、歯科医師、薬剤師又は登録販売者に相談すること

(1) 医師又は歯科医師の治療を受けている人。(2) 妊婦又は妊娠していると思われる人。(3) 授乳中の人。(4) 水痘(水ぼうそう) 若しくはインフルエンザにかかっている又はその疑いのある乳・幼・小児(15歳未満)。(5) 高齢者。(6) 薬などによりアレルギー症状を起こしたことがある人。(7) 次の診断を受けた人。 心臓病、腎臓病、肝臓病、胃・十二指腸潰瘍

2. 服用後、次の症状があらわれた場合は副作用の可能性があるので、直ちに服用を中止し、この文書を持って医師、薬剤師又は登録販売者に相談すること

関係部位	症 状
皮 膚	発疹・発赤、かゆみ
消 化 器	吐き気・嘔吐、食欲不振
精神神経系	めまい
そ の 他	過度の体温低下

まれに下記の重篤な症状が起こることがある。
その場合は直ちに医師の診療を受けること。

症状の名称	症 状
ショック (アナフィラキシー)	服用後すぐに、皮膚のかゆみ、じんましん、声のかすれ、くしゃみ、のどのかゆみ、息苦しさ、動悸、意識の混濁等があらわれる。
皮膚粘膜眼症候群 (スティーブンス・ジョンソン症候群) 中毒性表皮壊死融 解症、急性汎発性 発疹性膿疱症	高熱、目の充血、目やに、唇のただれ、のどの痛み、皮膚の広範囲の発疹・発赤、赤くなった皮膚上に小さなブツブツ(小膿疱)が出る、全身がだるい、食欲がない等が持続したり、急激に悪化する。
肝機能障害	発熱、かゆみ、発疹、黄疸(皮膚や白目が黄色くなる)、褐色尿、全身のだるさ、食欲不振等があらわれる。
腎 障 害	発熱、発疹、尿量の減少、全身のむくみ、全身のだるさ、関節痛(節々が痛む)、下痢等があらわれる。
間質性肺炎	階段を上ったり、少し無理をしたりすると息切れがする・息苦しくなる、空せき、発熱等がみられ、これらが急にあらわれたり、持続したりする。
ぜんそく	息をするときゼーゼー、ヒューヒューと鳴る、息苦しい等があらわれる。

- 服用後、次の症状があらわれることがあるので、このような症状の持続又は増強が見られた場合には、服用を中止し、この文書を持って医師、薬剤師又は登録販売者に相談すること 眠気
- 5～6回服用しても症状がよくなる場合は服用を中止し、この文書を持って医師、歯科医師、薬剤師又は登録販売者に相談すること

〈用法・用量に関連する注意〉

- (1) 3才未満の乳幼児には服用させないこと。(2) 定められた用法・用量を厳守すること。(3) 小児に服用させる場合には、保護者の指導監督のもとに服用させること。

〔保管及び取扱い上の注意〕

- (1) 直射日光の当たらない湿気の少ない涼しい所に保管すること。
- (2) 小児の手の届かない所に保管すること。(3) 他の容器に入れ替えないこと。(誤用の原因になったり品質が変わる。)
- (4) 配置期限を過ぎた製品は、服用しないこと。